小学校問題行動等防止プログラムに関する実践事例

三豊市立財田上小学校

関連項目：教育活動プラン①

体験活動を通して，自尊感情を高める

目的

本校の児童は，素直な児童が多く，言われたことに対しては責任を持って取り組むことができる。しかし，自分から進んで行動することは十分とはいえない。そこで，さまざまな体験活動を通して認め合うことで，自尊感情を高め，少しでも自分で考えて行動することができる児童を増やしたいと考えた。

内容

● 草抜き・落ち葉拾いボランティア

９月には運動会を実施しているが，運動場には夏休みの間に草がたくさん生えている。みんなで運動会が気持ちよくできるように，朝の登校後や休み時間を使って草抜きをするように呼びかけた。また，本校には大きな木が多くあり，毎年秋～冬にかけて落ち葉が多くなる。そこで，緑化委員を中心に，全校生に草抜きや落ち葉拾いを呼びかけ，使いやすく美しい運動場にしようと取り組んだ。落ち葉拾いをした日には，カードに印を付け，カードがいっぱいになったら全校放送で紹介をした。高学年を中心に言葉をかけ合って運動場へ行き，進んでみんなが草抜きや落ち葉拾いに取り組む姿が毎日見られた。各学級でも，カードに印がいっぱいになるのを競争するように楽しんで取り組む児童の姿も見られた。

● 表現の場の活用

集会での学年・委員会による発表や毎月の音読タイムやスピーチタイム，その時期に合わせた詩や俳句を作ったキラリ作品などの表現活動の場で，共感したことや良さを自由に述べ，認め合うことのできる場を充実させた。例えば，音読タイムでは低学年･中学年･高学年に分かれて，国語で学習している物語を役割を決めて音読をしたり，授業中作成した意見文やリーフレットを紹介したりすることを通して，学年団単位で交流を行うことができた。発表後には，進んで感想を言ったり質問をしたりすることで，お互いの学年のよさに気づき，それぞれの学年の自尊感情を高めるのに役立った。

● 主体的に活動できる場を作る

児童会があいさつ運動を毎月の最終週に行っている。気持ちのよいあいさつのできた児童を校内放送で知らせたり，集会の時間にあいさつについての劇をしたりと児童会が主体となり，全校生にあいさつを呼びかけている。その様子を見て，自分たちで話し合って，あいさつ運動に参加する学年も出てきた。『あいさつリーダー』バッジを作って希望者に配布して，あいさつ運動の活動を自分たちから高めようという意識の高まりを感じることができた。このことは，該当学年の成就感や達成感とともに，自尊感情の育成につながった。

成果

このような取組から，上の学年が手本を下の学年に示すことで，お互いにあいさつやボランティアに進んで参加しようとする意識や自尊感情も高まり，力を合わせて活動する姿が多く見られるようになった。児童のいろいろなアイデアを手助けできる教師の共感理解とサポート体制を整え，評価と指導を繰り返しながら取り組むことが大切である。